

## ほくげんこんエネルギー・コラム



## 「そんな昔のことは忘れた」 ～エネルギー・環境政策には一貫性を～

### 「そんな昔のことは忘れた」

この名セリフを吐いたのは1942年の映画「カサブランカ」の主人公リック（ハンフリー・ボガード）。仏領モロッコのカサブランカで営んでいた酒場で、彼に好意を持つイヴォヌに「昨晩はどこにいたの」と問われ、「そんな昔のことは忘れた」と投げやりな答える姿が格好よかった。その後、リックは、かつて黙って自分のもとを去った恋人イルザ（イングリッド・バーグマン）と酒場で再会。愛が再燃するが、最後は、彼女がチェコのレジスタンス指導者の夫とともに逃亡するのを助けるという切ないドラマである。

### 「昔」を忘れた？カナダのカーニー首相

「昨日」とは言わずとも、数年前のエネルギーや気候変動に対する姿勢をすっかり忘れたようにみえるのが、カナダのマーク・カーニー首相だ。

2021年の英国グラスゴーでのCOP26では、国連の特使として、パリ協定の目標を金融で具体化すべく、GFANZ（ネットゼロにむけたグラスゴー金融連盟）やその下部組織のNZBA（ネットゼロ銀行連盟）の発足を主導。再エネなどネットゼロ関連事業への資金の供給と化石燃料などへの投融資の削減に大きな貢献を果たした。

ところが、2025年にカナダの首相になると、同国の炭素消費税を速やかに廃止し、新たな原油パイプライン建設を推進するなど、一気に化石燃料支援に回るのである。

### 君子は豹変す

カーニー氏にも言い分はある。この数年のエネルギー情勢や地政学の大きな変化だ。

ロシアのウクライナ侵攻後、エネルギー価格を中心に世界的なインフレが起きたこと、それを機に世論の関心が気候変動から物価高など日々の生活の切実さに移ったこと、さらに、エネルギーの他国依存リスクが顕在化したことである。

カーニー氏は、今年1月、ダボス会議で基調講演を行い、「強者は自らの力の及ぶ限り振る舞い、弱者は苦し

むしかない時代」になったと語り、「自国で食料を賄えず、燃料を賄えず、防衛できない国に選択肢はない」と断言した。いまの日本人が嘸みしめるべき指摘である。

世界情勢や市民の関心の変化をとらえ、過去に拘泥せずに方針を変えるというのは、政治家として必須の資質なのであろう。まさに「君子は豹変す」である。

### エネルギー・環境政策には一貫性を

とはいえ、彼が関わったGFANZやNZBAが、必要な化石燃料資源への投融資を制限し、ここ数年のエネルギー価格高騰に加担したことは忘れてほしくないものだ。NZBAも様々な批判を受け、昨年10月に活動を停止した。

化石燃料の開発、再エネを含めた発電設備や送電線の建設など、エネルギー供給は長期にわたる政策の取組みにより実現するものが多い。政策が右往左往すれば、国民の負担が増えるばかりで、成果は上がらないのである。

前述のセリフは、「明日？そんな先のことはわからない」と続くのだが、エネルギー・環境政策は「明日」と言わず10年、20年先を見据えてほしいのである。



ヒロ・ミズカミ 代表  
水上 裕康 氏

電力取引・発電用燃料取引のコンサルタント、クライアントの外資系投資銀行とともに、市場リスク管理を中心とした電力・燃料取引を電力会社に紹介。そのかわり、電力を中心としたエネルギー関係情報の発信を続けている。エネルギーフォーラム誌等に寄稿。

一橋大学商学部卒、米国ジョージタウン大学MBA（経営学修士）  
電力会社で通算16年間燃料業務を担当  
2020年（株）ヒロ・ミズカミ設立

